

先週の復習

関数 $f(x)$ が周期 2π であるとき、

$$f(x) = \frac{a_0}{2} + \sum_{n=1}^{\infty} (a_n \cos nx + b_n \sin nx)$$

とできていた。

ここで、係数 a_n と b_n は

$$a_n = \frac{1}{\pi} \int_{-\pi}^{\pi} f(x) \cos nx \, dx \quad (n=0,1,2,\dots)$$

$$b_n = \frac{1}{\pi} \int_{-\pi}^{\pi} f(x) \sin nx \, dx \quad (n=1,2,\dots)$$

で求めることができた。

問題

$(-\pi, \pi]$ で次の式で与えられる 周期 2π の関数 $f(x)$ の Fourier 級数を求めよ

$$(1) f(x) = \begin{cases} \frac{1}{2}(-\pi-x) & (-\pi < x \leq 0) \\ \frac{1}{2}(\pi-x) & (0 < x \leq \pi) \end{cases}$$

$$(2) f(x) = \begin{cases} 0 & (-\pi < x < 0) \\ 2 \cos x & (0 \leq x \leq \pi) \end{cases}$$

答. (1). $f(x)$ は奇関数なので. $f(x) \cos nx$ は奇関数.

$$\therefore a_n = \frac{1}{\pi} \int_{-\pi}^{\pi} f(x) \cos nx dx = 0.$$

$f(x) \sin nx$ は偶関数よ).

$$\begin{aligned} b_n &= \frac{1}{\pi} \int_{-\pi}^{\pi} f(x) \sin nx dx = \frac{2}{\pi} \int_0^{\pi} f(x) \sin nx dx \\ &= \frac{1}{\pi} \int_0^{\pi} (\pi - x) \sin nx \cdot dx \\ &= \frac{1}{\pi} \left[\frac{-1}{n} (\pi - x) \cos nx \right]_0^{\pi} - \frac{1}{\pi n} \int_0^{\pi} \cos nx dx \\ &= \frac{1}{n} - \frac{1}{\pi n} \left[\frac{1}{n} \sin nx \right]_0^{\pi} = \frac{1}{n} \end{aligned}$$

$$\therefore f(x) = \sin x + \frac{1}{2} \sin 2x + \frac{1}{3} \sin 3x + \dots \quad \text{である.}$$

(2) $f(x)$ は $(-\pi, 0)$ で 0 をとる.

$$\begin{aligned} a_n &= \frac{1}{\pi} \int_{-\pi}^{\pi} f(x) \cos nx dx = \frac{1}{\pi} \int_0^{\pi} f(x) \cos nx dx \\ &= \frac{1}{\pi} \int_0^{\pi} 2 \cos x \cos nx \cdot dx \\ &= \frac{1}{\pi} \int_0^{\pi} \cos((n+1)x) + \cos((n-1)x) dx \\ &= \frac{1}{\pi} \left[\frac{1}{n+1} \sin(n+1)x + \frac{1}{n-1} \sin(n-1)x \right]_0^{\pi} \quad (n \neq 1 のとき) \\ &= 0. \end{aligned}$$

$$a_1 = \frac{1}{\pi} \left[\frac{1}{n+1} \sin(n+1)x + x \right]_0^{\pi} = 1$$

$$\begin{aligned} b_n &= \frac{1}{\pi} \int_{-\pi}^{\pi} f(x) \sin nx dx = \frac{1}{\pi} \int_0^{\pi} f(x) \sin nx \cdot dx \\ &= \frac{1}{\pi} \int_0^{\pi} 2 \cos x \sin nx \cdot dx \\ &= \frac{1}{\pi} \int_0^{\pi} \sin((1+n)x) - \sin((1-n)x) dx \\ &= \frac{1}{\pi} \left[\frac{-1}{1+n} \cos(1+n)x + \frac{1}{1-n} \cos(1-n)x \right]_0^{\pi} \quad (n \neq 1 のとき) \end{aligned}$$

$$= \frac{1}{\pi} \left(-\frac{1}{1+n} (\cos \pi(n+1)) + \frac{1}{1-n} (\cos \pi(1-n)x) + \frac{1}{1+n} - \frac{1}{1-n} \right)$$

$$= \begin{cases} \frac{4n}{\pi(n^2-1)} & (n \text{ が偶数}) \\ 0 & (n \text{ が奇数}) \end{cases}$$

であり

$$b_1 = \frac{1}{\pi} \int_0^\pi \sin 2x \, dx = 0$$

となる。

$$\therefore f(x) = \cos x + \frac{4}{\pi} \cdot \sum_{n=1}^{\infty} \frac{2n}{\pi(4n^2-1)} \cdot \sin 2nx$$

となる。

この問題で与えられた関数は不連続な関数であるか。

不連続な点の近くでは、大きな誤差があらわてくる。

これを ギブス現象 といふ。

どんな関数がフーリエ級数で表せるか:

一般に点 c における関数 $f(x)$ の左側極限値と右側極限値を

左極限 : $f(c-0) = \lim_{h \rightarrow 0^-} f(c+h)$

右極限 : $f(c+0) = \lim_{h \rightarrow 0^+} f(c+h)$

関数 $f(x)$ が $x=c$ で連続とは、 $f(c)$ が定義できていってかつ

$f(c-0) = f(c+0)$ であるときをいう。

例 (1). $f(x) = \begin{cases} \frac{1}{2}(-\pi - x) & (-\pi < x \leq 0) \\ \frac{1}{2}(\pi - x) & (0 < x \leq \pi) \end{cases}$

$f(0+0) = \pi$, $f(0-0) = -\pi$ であり。 $x=0$ で不連続。

(2). $f(x)$ が連続なら $f(c+0) = f(c-0)$ である。

定義. 区間 $[a, b]$ で定義された関数 $f(x)$ が、有限個の点を除いては連続であり。

不連続な点では 左右の極限値が 存在するとき。

$f(x)$ は 区間 $[a, b]$ で **区分的に連続** であるといふ。

無限区間 で定義された $f(x)$ は、任意の有限区間で 区分的に連続であるとき、

区分的に連続 といふ。

ある区間で 関数 $f(x)$ の導関数 $f'(x)$ が 区分的に連続であるとき、

$f(x)$ を 区分的に 滑らか であるといふ。

→ 周期 2π の関数は、 $[-\pi, \pi]$ だけから半定です。

定理1.2. 周期 2π の関数 $f(x)$ が 区分的に 滑らかならば、

$f(x)$ の フーリエ級数は、

(1) $f(x)$ が 連続な点では。 $f(x)$ に 収束する

(2). $f(x)$ が 不連続な点で (す)

$$\frac{1}{2} (f(x_0^-) + f(x_0^+)) \text{ に 収束する}$$

例. $f(x) = \begin{cases} 0 & (-\pi < x < 0) \\ x & (0 \leq x \leq \pi) \end{cases}$ を 考えると。

$$\begin{aligned} a_n &= \frac{1}{\pi} \int_{-\pi}^{\pi} f(x) \cdot \cos nx dx = \frac{1}{\pi} \int_0^{\pi} x \cdot \cos nx dx \\ &= \frac{1}{\pi} \left[\frac{1}{n} \cdot x \cdot \sin nx \right]_0^{\pi} - \frac{1}{\pi n} \int_0^{\pi} \sin nx dx = \frac{1}{\pi n} \left[\frac{1}{n} \cdot \cos nx \right]_0^{\pi} \\ &= \begin{cases} 0 & (n \text{ が 偶数}) \\ \frac{-2}{\pi n^2} & (n \text{ が 奇数}) \end{cases} = \frac{1}{\pi n^2} ((-1)^n - 1) \end{aligned}$$

$$a_0 = \frac{1}{\pi} \int_0^\pi x dx = \frac{\pi}{2}$$

$$\begin{aligned} b_n &= \frac{1}{\pi} \int_{-\pi}^{\pi} f(x) \cdot \sin nx dx = \frac{1}{\pi} \int_0^\pi x \cdot \sin nx dx \\ &= \frac{1}{\pi} \left[-\frac{1}{n} x \cdot \cos nx \right]_0^\pi + \frac{1}{\pi n} \int_0^\pi \cos nx dx \\ &= \frac{1}{\pi} \cdot \frac{-1}{n} \cdot \pi \cdot \cos n\pi + \frac{1}{\pi n} \left[\frac{1}{n} \sin nx \right]_0^\pi \\ &= \begin{cases} -\frac{1}{n} & (n \text{ が偶数}) \\ \frac{1}{n} & (n \text{ が奇数}) \end{cases} = \frac{1}{n} (-1)^{n-1}. \end{aligned}$$

$$\therefore f(x) = \frac{\pi}{4} + \sum_{n=1}^{\infty} \left(\frac{-2}{\pi(2n-1)^2} \cos((2n-1)x) + \frac{1}{2n-1} \sin((2n-1)x) - \frac{1}{2n} \sin 2nx \right) \text{ となる。}$$

ここで“不連続な点は $x=\pi$ であるが”。

$$\text{フーリエ級数は } \frac{\pi}{4} + \sum_{n=1}^{\infty} \frac{-2}{\pi(2n-1)^2} \cdot (-1) = \frac{\pi}{4} + \frac{2}{\pi} \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{(2n-1)^2} = \frac{\pi}{2} \text{ となる。}$$

$f(\pi+0) = 0, f(\pi-0) = \pi$ なので、定理が成り立つ。

問題 次の関数のフーリエ級数を求め、その不連続点で定理が成り立つことを示せ

$$(1) f(x) = x$$

$$(2) f(x) = \begin{cases} -1 & (-\pi < x < 0) \\ 1 & (0 \leq x \leq \pi) \end{cases}$$

答 (1) $f(x)$ は奇関数なので。

$$a_n = \frac{1}{\pi} \int_{-\pi}^{\pi} f(x) \cos nx dx = 0.$$

$$b_n = \frac{1}{\pi} \int_{-\pi}^{\pi} f(x) \sin nx dx = \frac{2}{\pi} \int_0^\pi x \cdot \sin nx dx = \frac{2}{n} (-1)^{n-1}$$

$$\therefore f(x) = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{2}{n} (-1)^{n-1} \sin nx.$$

上の計算から。

ここで、不連続点は $x=\pi$ であるが、

フーリエ級数は、 $x=\pi$ で 0 をとする。

一方 $f(\pi+0) = -\pi$, $f(\pi-0) = \pi$ より定理をみたす。

(2). $f(x)$ は奇関数なので、

$$a_n = 0.$$

$$\begin{aligned} b_n &= \frac{1}{\pi} \int_{-\pi}^{\pi} f(x) \sin nx dx = \frac{2}{\pi} \int_0^{\pi} \sin nx dx \\ &= \frac{2}{\pi} \left[-\frac{1}{n} \cos nx \right]_0^{\pi} = \begin{cases} 0 & (n \text{ が偶数}) \\ \frac{4}{\pi n} & (n \text{ が奇数}) \end{cases} \end{aligned}$$

$$\therefore f(x) = \frac{4}{\pi} \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{2n-1} \cdot \sin((2n-1)x) \quad \text{である。}$$

ここで、不連続点は 0 と π であるが、

フーリエ級数は、 $x=0$ で 0, $x=\pi$ で 0 をとする

一方 $f(0+0) = 1$, $f(0-0) = -1$, $f(\pi+0) = -1$, $f(\pi-0) = 1$ より定理をみたす。